

KK-7 低圧タービン取替工事 等の 影響評価確認結果について

東京電力ホールディングス株式会社

2023年7月18日

TEPCO

本日のご報告内容について

○時系列

- 2022年5月9日
日本製鋼所M&E株式会社(以下、JSW M&E)が製造する電力製品の一部について、その製造過程で実施すべき検査の一部に不適切な行為が行われていたことが公表された。
- 2022年5月30日
東京電力HDから原子力規制庁に対し、当時の段階で確認できた原データを確認し、問題なく使用可能と判断している旨ご報告した。原子力規制庁からは、不適切行為が明確になった段階で、改めて影響の有無を確認・報告するよう指示を受けた。
- 2022年11月14日
外部弁護士らで構成された特別調査委員会の調査報告書が公表された。調査報告書によると、同年5月に公表された電力製品の他、原子力製品(原子炉一次系・キャスク)や鋳鋼品等についても不適切行為が行われていた事実が明らかとなった。

○本日のご報告内容

上記経緯を踏まえ、弊社の製品について影響評価を実施した結果をご報告する。

- ①柏崎刈羽原子力発電所(以下、KK)において納入済みの製品
- ②KK7号機で取替予定の、現在製作中の低圧タービンロータ製品

① KKにおいて納入済みの製品について

○電力製品

- ・JSW M&Eや特別調査委員会によると、不適切行為の始点は1998年(ローター材)、及び2004年(リング材)と報告されている。KKに納入済みの製品については、全て始点以前に製作されていることを確認している。
- ・この始点に対して、主な要因は受注製品の急増とした調査委員会の見解について、実際に当社でもJSW M&E社に対し直接聞き取りを実施し齟齬がないことを確認した。
- ・また、納入済みの製品の原データが一部残っており、実際に当社で確認した結果不適切行為は確認されなかった。
- ・以上より、KKに納入済みの製品については、不適切行為が行われた製品でないと判断した。

○原子力製品

- ・原子力製品については、JSW M&E社のQMS体制が異なり、基本的には不適切行為が発生する環境にはないと報告されている。しかしながら特別調査委員会において、突発的な不適切事象が複数件発生していることが報告されており、そのいずれも主に海外の特殊な仕様要求や、製品の特殊性から発生した事象と整理されている。
- ・報告された突発的な不適切事象とその見解について、実際に当社でもJSW M&E社に対し直接聞き取りを実施し齟齬がないことを確認した。
- ・KKに納入済みの製品については、その製品・仕様要求において、いずれのケースにも当てはまらないことから、不適切行為が行われた製品でないと判断した。

○その他製品(鋳鋼品等)

- ・KKに納入済みの製品については、電力製品と同様に不適切行為の始点以前に製作されていることから、不適切行為が行われた製品ではないと判断した。

② KK7号機で取替予定の、現在製作中の低圧タービンロータ製品について

○原データの確認結果

・KK7低圧タービンロータについては、全ての原データが残存しており、JSW M&E の検査工程において、元請けの要求仕様と異なる行為が複数確認されているが、そのいずれも元請けが要求する品質に影響はないと判断している。また、当社要求仕様も満足していることを確認している。

○今後の予定

・上記結果から、継続実施中である使用前事業者検査を適切に進め、取替工事に向け準備を進めていく。